



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 354

令和6年11月1日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141

<https://www.city.mitsuke.niigata.jp/site/misho/>



大人の姿に見小教育を見る

校長 後藤 正美

ご承知のように、今年の見附まつり鼓笛パレードは、前夜からの雷雨のために中止となりました。今年だけのオリジナル缶バッジを作り、気持ちを高めていたピース学年の子供たちは落胆しました。そこで学年で話し合い、人前で演奏して区切りをつけたいと考えます。地域の方へも広報しようとして回覧板用のチラシも作り、準備を進めました。やらされるのではなく、自分たちの思いをもって取り組む姿勢に感心しました。10月7日のパレード本番には、稲田市長をはじめ、多くの保護者や地域の方・見小っ子たち・工事の方も手を止めて拍手をしてくださいました（写真左）。これこそが、「地域の学校」である見小教育の姿だと嬉しくなりました。

26日に行われた郷育フェスタでの音楽発表も同様です。こうした発表会では、教師の気合いが入るほど、つい一方的な指導になりがちです。しかし、私たちが未来を見据えて育てているのは、指示通りに動くだけの子ではありません。「自分たちで考えるプロセス、アイデアを出し合う姿、やりきった達成感等」を、今まで以上に大切にしようとして、職員一同取り組んできました。代表委員会で、全校スローガンを話し合ったのもその一つです（写真右）。運動会はスローガンを決めるのに、フェスタにはありませんでした。そこで、3年生が学習と絡めて発案し、代表委員会でスローガンを決めたのです。大勢の前で発表することが、苦手なお子さんもあります。だからこそ、よりよい発表にしようとして意見を出し合う姿、来客を迎えるための準備を行う姿など、心が前向きになっている子供たちを見ると、やはり嬉しくなりました。

さらに、今年フェスタ当日には、「はなまるみつけタイム（1年生）」「みらいのかがやきみつけタイム（6年生）」のように、親子での振り返りの時間を設定しました。これは、大人からのメッセージを子供たちへ届けたい、言葉の交流を図ることで自信を育みたいという願いがありました。言葉にしなれば、思いが伝わらないこともあります。多くのコメントを子供たちに紹介でき、達成感につなげることができました。

鼓笛に駆けつけて拍手する大人の姿、音楽発表に言葉で応える大人の姿、そしてSDGsマーケットを実施した6年生保護者の姿は、「見小っ子への温かな思い」で共通しています。こうした大人の姿に、「実生の輝き」を支える礎を見た思いの10月でした。